

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3691200020		
法人名	社会福祉法人 有誠福祉会		
事業所名	グループホーム 希		
所在地	徳島県名西郡石井町石井字石井1994番地		
自己評価作成日	平成22年1月	評価結果市町村受理日	平成21年7月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo.tokushakyo.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3691200020&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会		
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階		
訪問調査日	平成22年2月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

日課に追われることなく、ゆったりと自分のペースを保ちながら生活していただいている。バランスの取れた食事や清潔な生活、通院、医療的なサポート、健康に対するきめ細やかな配慮を行っている。五感への働きかけの工夫として季節感がある壁面を作り、変化を持たせるよう工夫している。仕事をしている充実感として、ちぎり軽作業を行っており、その収益は利用者へのプレゼント代に充てている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、隣接する施設がある敷地内の一角に位置し、周辺にはのどかで静かな田園風景が広がっている。ホーム内は明るく、晴れの日にはガラス越しに日光浴もでき、玄関にはベンチも置かれ、家庭的なたたずまいのホームである。全職員が理念を基に利用者の視点に立ち、思いやりを持って、日々の中で一人ひとりが尊厳ある姿を現せるように支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			希 1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	社会的役割やグループホーム独自の理念を認識し、明確に掲げている。職員は理念を共有し日々のケアサービスに活かしている。	ミーティングや申し送りの際に理念について確認し、日頃のサービスに理念が反映されるよう取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	併設施設に地元小学生が課外授業に来園したり、老人会が定期的に来訪して定期的に交流している。	保育園児や地元の民生委員の来訪、家族による散髪ボランティア、併設施設との交流などを通して地域の方とふれ合う機会をつくっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域住民と事業所職員により地域の清掃活動を実施している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では利用者のサービス状況現状などを報告し、次回につなげている。	事業所からの報告やメンバーからの意見・要望も受けながら、サービスの質の向上に向けて取り組んでいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者とは運営推進会議はもとより、それ以外の場でも常時、相談や助言が得られる関係づくりに努めている。	市町村担当者と常時、相談や助言が得られる関係づくりに努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入居者が抱える転倒や転落等のリスクに対して、身体拘束をしない介護上の工夫を行っている。玄関は安全のためやむを得ず暗証番号式のロックにより安全を確保している。	地域の民生委員等の協力を得ながら、日中は玄関の施錠はしていない。また、身体拘束に関する勉強会も実施し、共通認識が図られている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者と職員は時間がある限り話し合い、些細な事柄でも口に出してお互いにストレスをためないようにしている。虐待防止についての講座に参加したり、参考文献でそれについて学んだりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			希 1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見制度が必要な利用者はいないが、その仕組みや手続きなどをインターネットや資料を参考にして勉強している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分に時間をかけて相手が理解、納得するまで説明している。重要事項説明はもとより、苦情解決、個人情報の同意、看取り、身体拘束などについても相手がわかりやすくこと細かく説明するよう心がけている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会などを利用し、気の付くことなどを出していただいている。定期的な報告としては「希だより」を年3回、家族会を年2回開催予定としているが、不定期的な急を要する報告は電話などを利用している。	意見を出しやすい雰囲気づくりに留意し、また年2回家族会を開催し、出された意見や要望はミーティングで話し合っ対応している。また、「希だより」を年3回発行し取り組み状況等を報告している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は職員が気安く話ができるよう、月1回以上のカンファレンス時にも時間を十分とって何でも話せる環境づくりに努めている。	月1回のミーティングや申し送り時に職員の意見や提案を聞き、気軽に話ができるようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員の得意な分野を見つけ出し、自信を持って取り組んでもらい、各自の意欲向上を図っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	採用時には接遇マナー研修を受講し、スキルアップのために段階に応じた研修を受講している。受講後は研修内容報告会を実施し全職員で共有ができるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会などへ積極的に参加し、他事業所の職員と顔馴染みになり、お互いが気軽に交流できるように心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			希 1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に、利用者本人が何を望んでいるかじっくり聴き取りを行っている。意思疎通が困難な方には家族やケアマネジャーから過去の生活状況や性格、趣味等を聞き出し、それに基づいて処遇方法の検討に役立っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	在宅における家族の苦労やサービスの利用状況、グループホーム利用希望に至るまでの経緯を聞けるように心がけている。家族とも信頼関係が結べるよう何でも話していけるよう努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	すぐに入居をすすめず、本人や家族の要望、状況をじっくり把握し、必要に応じてケアマネジャーや地域包括支援センターへつなぎ多方面から支援できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	全利用者と同職員が一つの家族であるような環境をつくっている。「〇〇先生、〇〇子さん」など本人が気に入る呼称を使い、より親近感が深まるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	価値観を共有できるように、日々の生活の中で日常会話を重視した交流に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまで築いてきた馴染みの関係を大切にしていただくために、友人や知人の面会をお願いしている。自由な面会の受け入れと文書発送等も積極的に行っている。	これまで築いてきた馴染みの関係を大切にし、友人や知人の面会を積極的に受け入れたり、昔から利用している美容院に行ったりしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	昼間はなるべく居室へ閉じこもらないよう促し、ホール等で机に座ってお互いが顔を見て食事をしたり話をしたりできる環境づくりに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			希 1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された方等には、時々電話をしたり訪問したりして、その後の健康状態や生活状況などを聞き、要望があれば相談に乗るようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意思を大切に、できるだけ意向通りの暮らしができるように配慮している。意思疎通が困難な方に関しては、本人の立場や家族の意向に立って考え、より良い暮らしができるよう配慮している。	「わたしのできること、できないこと」シート、「わたしのわかること、わからないこと」シート、「わたしがしてほしいこと」シートを活用し、本人の意思を大切に、できるだけ本人の意向にそった暮らしができるようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前には、家族やケアマネジャーなどから丁寧に聞き取りを行っている。入居後も面会した折には過去の状況について聞き取りを行い、詳しい生活状況の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の身体状況や認知度の状況を把握し、のびのび生活できるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族等からの情報を基に、できるだけよりよいケアプランとなるよう努めている。	本人や家族の意見や思いを聞き、また職員間で意見交換やモニタリング・カンファレンスを行い、現状に即した計画を作っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の日常生活の様子や気づきなどを個人ファイルに記入し、できるだけ申し送り等で情報の共有化に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の要望に応じて、美容院や外出、通院や送迎など必要な支援は柔軟に行い、個々の満足度を高めるよう努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			希 1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	定期的な消防訓練の実施を積極的に行っている。地域包括支援センターのソーシャルワーカーや訪問看護師等と連携を図りながら支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	いつでも気軽に相談でき、緊急時に対応してもらえる協力医療機関がある。	本人や家族が希望する協力医療機関があり、受診や通院はいつでも気軽に応じて対応している。また、必要に応じて家族にも付きそってもらい、一緒に話を聞いてもらうこともある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護の協力のもと、健康管理や医療活用の支援をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	連携病院への定期的な受診により、看護師との情報交換に留意しながらサービスの向上に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアについては限界があるため、そのことを入居時に家族へ説明している。	重度化した場合や終末期のあり方については、ホームを利用する時点で十分に家族と話し合い、必要な時には家族に泊まってもらい、ともに支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルや過去の事例を基に、管理者を中心として定期的にカンファレンスやロールプレイを行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回行っている防災訓練を通して、災害時における対応策を学んでいる。また地元消防団や隣接する関連施設への救助要請をできるようにしている。	災害時の訓練は年2回行い、隣接する施設・消防団への救助要請の仕組みはできている。しかし地域との協力体制は構築されていない。	日頃から地域の方々との連携を図りながら事業所の災害対策を理解してもらいなど地域との協力体制を築かれない。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			希 1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけや対応に、気を配っている。特に本人の主張することは拒否しないで傾聴し、受容するように心がけている。	利用者の状態を常に把握し、プライバシーを傷つけないようおだやかな態度で接し、常に人権に配慮したケアに取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者一人ひとりの意見や希望を重視し、大切にしている。また訴えのない方には選択肢を設けたりして意思を表せるよう配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	時間がかかっても相手のペースに合わせて見守ることが必要であり、手を出しすぎないように心がけ、できていないことや間違っていることは、ともに後からフォローするようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出も兼ねて馴染みの美容室へ一緒に行き、毛染めやパーマ等のおしゃれを支援している。身だしなみも季節や気温、場に合わせることに加えて、体調に合わせて快適に暮らせるようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の時間は音楽を聴きながら、なごやかな雰囲気の中で一人ひとりが自分のペースで食事をとることができるよう十分な時間を確保して実施している。	利用者一人ひとりのペースでゆっくりと食事ができるように配慮している。音楽も聞きながら、なごやかな雰囲気の中で、食事がとられている。食事は母体法人から運ばれ、職員は見守りを行っておいる。	利用者と共に買い物や調理、食事、片付けを行ったり、職員も同じテーブルを囲むなど食事がより楽しみなものとなるような工夫が望まれる。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が立てた献立を基に調理しているため、栄養のバランスはとれている。毎食後に摂取量のチェックを行い、定期的にお茶の時間を設けて水分補給に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入れ歯の洗浄や歯磨きなど、食後や就寝前の口腔衛生に努めているが、嫌がる方の対応が難しい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			希 1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の誘導や介助は、プライドを傷つけないよう配慮して行っている。排便記録も使用し、排泄パターンをチェックして把握することできるよう失敗しないよう支援している。	排泄チェックシートで一人ひとりのパターンを把握し、プライドを傷つけない支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックシートを活用している。下痢状態があるときは粥食にするなど、その時の体調に合わせて柔軟に対応している。また便秘に関しては、歩行訓練や体操、繊維食の摂取等で対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の希望を取り入れ、不安や羞恥心に配慮し時間をかけて行っている。本人が希望しても、バイタルチェックで異常がある時は遠慮していただく場合もある。	本人の希望を取り入れ、個々にそった入浴支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく自宅で使用していた布団や枕等を使用していただき馴染みのある環境づくりに努めている。夜は安心して深い眠りが取れるように、昼間はなるべく活動するように支援して生活リズムの調整を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方された薬については、説明書に全職員が目を通すように徹底している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の得意分野を役割とし、洗濯物干しや洗濯物たたみ、家庭菜園などそれぞれが持つ力を発揮して楽しみながら行えるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気が良い時などには近くのビオトープに出かけて自然を満喫したり、近所の方と話をしたりして過ごしている。また家族との外出や外食など、一緒に出かけられるような場面や機会をつくっている。	本人の希望に応じて、家族の協力を得て墓参りに出かけたたり、コーヒー喫茶や天気の良い時は近くのビオトープに出かけて近所の方と話しながら過ごすなど外出支援に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			希 1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	日常の金銭管理は、本人の能力に合わせて支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望がある時は随時、電話や手紙で本人の希望に応じて支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内には四季折々の環境作品や花を飾り、自宅にいるという空間づくりに努めている。	共有空間はガラス張りで明るく開放感があり、外の眺めもよく、作品や季節の花も飾られている。犬を飼っており、利用者の心のよりどころとなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ゆっくり会話ができるようにソファを配置するなど、ゆったりと座れる場所を用意したりしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内への持ち込みは、火気のあるものを除いて自由にしており、自宅で使用していた物に囲まれた生活ができるようにしている。またベッドやタンスも、本人が使いやすい配置にしている。	居室には使い慣れたタンスや馴染みの品が持ち込まれ、居心地よく過ごせるような工夫がなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自分で可能なことは、できるだけ本人に行っていただくよう努めている。また転倒の危険性を低くするため、安全で自由に歩行できるように配慮している。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			希 2 実践状況	実践状況	実践状況
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	社会的役割やグループホーム独自の理念を認識し、明確に掲げている。職員は理念を共有し日々のケアサービスに活かしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	併設施設に地元小学生が課外授業に来園したり、老人会が定期的に来訪して定期的に交流している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域住民と事業所職員により地域の清掃活動を実施している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では利用者のサービス状況現状などを報告し、次回につなげている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者とは運営推進会議はもとより、それ以外の場でも常時、相談や助言が得られる関係づくりに努めている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入居者が抱える転倒や転落等のリスクに対して、身体拘束をしない介護上の工夫を行っている。玄関は安全のためやむを得ず暗証番号式のロックにより安全を確保している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者と職員は時間がある限り話し合い、些細な事柄でも口に出してお互いにストレスをためないようにしている。虐待防止についての講座に参加したり、参考文献でそれについて学んだりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			希 2 実践状況	実践状況	実践状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見制度が必要な利用者はいないが、その仕組みや手続きなどをインターネットや資料を参考にして勉強している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分に時間をかけて相手が理解、納得するまで説明している。重要事項説明はもとより、苦情解決、個人情報の同意、看取り、身体拘束などについても相手がわかりやすくこと細かく説明するよう心がけている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会などを利用し、気の付くことなどを出していただいている。定期的な報告としては「希だより」を年3回、家族会を年2回開催予定としているが、不定期的な急を要する報告は電話などを利用している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は職員が気安く話ができるよう、月1回以上のカンファレンス時にも時間を十分とって何でも話せる環境づくりに努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員の得意な分野を見つけ出し、自信を持って取り組んでもらい、各自の意欲向上を図っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	採用時には接遇マナー研修を受講し、スキルアップのために段階に応じた研修を受講している。受講後は研修内容報告会を実施し全職員で共有ができるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会などへ積極的に参加し、他事業所の職員と顔馴染みになり、お互いが気軽に交流できるように心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			希 2 実践状況	実践状況	実践状況
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に、利用者本人が何を望んでいるかじっくり聴き取りを行っている。意思疎通が困難な方には家族やケアマネジャーから過去の生活状況や性格、趣味等を聞き出し、それに基づいて処遇方法の検討に役立っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	在宅における家族の苦労やサービスの利用状況、グループホーム利用希望に至るまでの経緯を聞けるように心がけている。家族とも信頼関係が結べるよう何でも話していけるよう努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	すぐに入居をすすめず、本人や家族の要望、状況をじっくり把握し、必要に応じてケアマネジャーや地域包括支援センターへつなぎ多方面から支援できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごしえあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	全利用者と全職員が一つの家族であるような環境をつくっている。「〇〇先生、〇〇子さん」など本人が気に入る呼称を使い、より親近感が深まるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	価値観を共有できるように、日々の生活の中で日常会話を重視した交流に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまで築いてきた馴染みの関係を大切にしていただくために、友人や知人の面会をお願いしている。自由な面会の受け入れと文書発送等も積極的に行っている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	昼間はなるべく居室へ閉じこもらないように促し、ホール等で机に座ってお互いが顔を見て食事をしたり話をしたりできる環境づくりに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			希 2 実践状況	実践状況	実践状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された方等には、時々電話をしたり訪問したりして、その後の健康状態や生活状況などを聞き、要望があれば相談に乗るようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意思を大切にして、できるだけ意向通りの暮らしができるように配慮している。意思疎通が困難な方に関しては、本人の立場や家族の意向に立って考え、より良い暮らしができるよう配慮している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前には、家族やケアマネジャーなどから丁寧に聞き取りを行っている。入居後にも面会した折には過去の状況について聞き取りを行い、詳しい生活状況の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の身体状況や認知度の状況を把握し、のびのび生活できるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族等からの情報を基に、できるだけよりよいケアプランとなるよう努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の日常生活の様子や気づきなどを個人ファイルに記入し、できるだけ申し送り等で情報の共有化に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の要望に応じて、美容院や外出、通院や送迎など必要な支援は柔軟に行い、個々の満足度を高めるよう努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			希 2 実践状況	実践状況	実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	定期的な消防訓練の実施を積極的に行っている。地域包括支援センターのソーシャルワーカーや訪問看護師等と連携を図りながら支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	いつでも気軽に相談でき、緊急時に対応してもらえる協力医療機関がある。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護の協力のもと、健康管理や医療活用の支援をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	連携病院への定期的な受診により、看護師との情報交換に留意しながらサービスの向上に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアについては限界があるため、そのことを入居時に家族へ説明している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルや過去の事例を基に、管理者を中心として定期的にカンファレンスやロールプレイを行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回行っている防災訓練を通して、災害時における対応策を学んでいる。また地元消防団や隣接する関連施設への救助要請をできるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			希 2	実践状況	実践状況
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけや対応に、気を配っている。特に本人の主張することは拒否しないで傾聴し、受容するように心がけている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者一人ひとりの意見や希望を重視し、大切にしている。また訴えのない方には選択肢を設けたりして意思を表せるよう配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	時間がかかっても相手のペースに合わせて見守ることが必要であり手を出しすぎないように心がけ、できていないことや間違っていることは、ともに後からフォローするようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出も兼ねて馴染みの美容室へ一緒に行き、毛染めやパーマ等のおしゃれを支援している。身だしなみも季節や気温、場に合わせることに加えて、体調に合わせて快適に暮らせるようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の時間は音楽を聴きながら、なごやかな雰囲気の中で一人ひとりが自分のペースで食事をとることができるよう十分な時間を確保して実施している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が立てた献立を基に調理しているため、栄養のバランスはとれている。毎食後に摂取量のチェックを行い、定期的にお茶の時間を設けて水分補給に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入れ歯の洗浄や歯磨きなど、食後や就寝前の口腔衛生に努めているが、嫌がる方の対応が難しい。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			希 2 実践状況	実践状況	実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の誘導や介助は、プライドを傷つけないよう配慮して行っている。排便記録も使用し、排泄パターンをチェックして把握することできるよう失敗しないよう支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックシートを活用している。下痢状態があるときは粥食にするなど、その時の体調に合わせて柔軟に対応している。また便秘に関しては、歩行訓練や体操、繊維食の摂取等に対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の希望を取り入れ、不安や羞恥心に配慮し時間をかけて行っている。本人が希望しても、バイタルチェックで異常がある時は遠慮していただく場合もある。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく自宅で使用していた布団や枕等を使用していたき馴染みのある環境づくりに努めている。夜は安心して深い眠りが取れるように、昼間はなるべく活動するように支援して生活リズムの調整を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方された薬については、説明書に全職員が目を通すように徹底している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の得意分野を役割とし、洗濯物干しや洗濯物たたみ、家庭菜園などそれぞれが持つ力を発揮し楽しみながら行えるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気が良い時などには近くのビオトープに出かけて自然を満喫したり、近所の方と話をしたりして過ごしている。また家族との外出や外食など、一緒に出かけられるような場面や機会をつくっている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			希 2 実践状況	実践状況	実践状況
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	日常の金銭管理は、本人の能力に合わせて支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望がある時は随時、電話や手紙で本人の希望に応じて支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内には四季折々の環境作品や花を飾り、自宅にいるという空間づくりに努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ゆっくり会話ができるようにソファを配置するなど、ゆったりと座れる場所を用意したりしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内への持ち込みは、火気のあるものを除いて自由にしており、自宅で使用していた物に囲まれた生活ができるようにしている。またベッドやタンス、も本人が使いやすい配置にしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自分で可能なことは、できるだけ本人に行っていただくよう努めている。また転倒の危険性を低くするため、安全で自由に歩行できるよう配慮している。		